

教科名	算数科
-----	-----

小 09 練馬区立早宮小学校

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第 1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・数字を正しく書くことに課題が見られる。 ・数の意味や数量の関係をとらえることに課題が見られる。 ・計算の正確性や定着に課題が見られる。 ・問題を正しく読み取り、式を立てられるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の差に対応した習熟度別少人数指導と個に応じた指導を行う。 ・具体物を操作することで、数量に対する感覚を磨いていけるよう、教材・教具を工夫する。 ・基礎・基本の定着を図るため、反復的に練習問題に取り組む時間を設ける。 ・問題文に下線を引いたり、具体物に表したりすることで問題場면을丁寧に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学力に応じて課題を変えていく必要がある。 ・計算をはやく正確にできる力を身に付けさせるため、具体物操作、反復練習を重視する。 ・タブレット PC を活用し、ドリル学習を充実させる。
第 2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の差に応じた指導をしたい。 ・算数的活動を通して具体的な経験を積む必要がある。 ・長さやかさ、時刻と時間についての経験を増やす必要がある。 ・問題場面を読み取り、図や式に表すことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の差に対応した習熟度別少人数指導と個に応じた指導を行う。 ・個別指導の時間を増やし、理解が確実に深められるようにする。 ・具体物を提示するなどして、算数的活動の充実を図る。特に時刻と時間については、学校生活の中で学習内容を生かすようにする。 ・課題解決のための、グループによる話し合いの場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学力に応じて課題を変えていく必要がある。 ・基礎・応用的な問題の反復練習を計画的に取り入れる。 ・個に応じて発展的な問題を用意する。 ・必要に応じて放課後に短時間の補習を行う。 ・タブレット PC を活用し、ドリル学習を充実させる。
第 3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容が定着していない児童もあり、既習内容の定着状況に差が見られる。 ・コースによって補充問題を解く時間の確保が難しい。 ・文章問題で正しく問題を読み取り立式する力が不十分な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コースに応じて、既習内容の復習から始めたり、繰り返して定着するよう問題練習する時間を設けたりする。 ・単元初期の学習展開を工夫し、児童やコースの実態に応じて効率的に学習を進め、補充問題を解く時間を確保する。 ・文章題を解くときに、立式のヒントとなるキーワードを確認したり、図などを用いて問題場면을想像したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学力に応じて学習課題を工夫していく。 ・タブレット PC を活用し、ドリル学習を充実させる。 ・児童の学力に応じて、問題数を調整する。 ・学力補充教室と地域未来塾を活用する。
第 4 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容の定着状況に差が見られるため、個に応じた支援が必要である。 ・領域ごとに学力の差が生じている。(特に図形領域) 	<ul style="list-style-type: none"> ・領域に合わせて教材教具を工夫し、授業を組み立てる。 ・文章問題の解決場面以外でも式と関連付けて考える力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット PC を活用し、類題に多く触れさせる。 ・習熟プリントを準備し、必要に応じて活用する。
第 5 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの見通しをもち、自力解決をする機会と足場かけを適切に提供する必要がある。 ・単位量当たりの大きさや速さなどの抽象的思考は単元の導入などで図式化するなど視覚的にイメージしやすくし、題意を捉えさせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レディネステストの結果だけではなく、既習内容の定着状況や各教科での授業参加の状況なども踏まえてコース編成を行う。 ・教科書に書かれている前学年までの既習内容を想起させて、問題解決への見通しをもたせるとともに、自力・集団解決の時間を実態に合わせて確保する。 ・既習状況を踏まえて、抽象的な問題場면을図式化するなど視覚的にイメージしやすくし、補助発問を行い、問題場面の理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の理解度に合わせた課題を提供する場面を多くし、一人一人が意欲をもって取り組めるようにする。 ・理解に時間がかかる児童には、個別に課題を与えて理解力の向上を図る。 ・必要に応じて放課後に短時間の補習を行う。 ・タブレット PC を活用し、復習を含めたドリル学習を充実させる。

第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面を数直線図や表に表し、数の関係を捉えることに課題が見られる。 ・単元直後の定着率だけでなく、小学校の学習内容全般の定着率を把握し、指導方法に生かしたい。 ・複数の解き方をすすんで見付け、多様な見方・考え方をさせたい。 ・主体的に学習に取り組めるように学力や意欲の差を補いながら問題解決場面で交流させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を見てすぐに立式するのではなく、数直線図や表に表して数の関係を確かめてから立式する。習熟度に応じて、自力解決で取り組ませたり、教師が支援したりする。 ・学習時に既習事項を振り返って活用できるようにし、単元が変わっても、以前の学習とのつながりを意識させる。 ・「問題を解く」だけでなく、「どんな考え方ができるか」にも重きを置いて、考え方を交流するなど集団での学びを生かせるようにする。 ・習熟度別指導では児童の交流を意図的に行い、学び合いを通して、児童の理解度と意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の習熟度に合わせた課題を提供する場面を多くする。 ・発展的な課題として、学習内容を活用した問題づくりを設定し、交流活動を活性化させる。 ・習熟度別クラスでは学習する人数を調整し、個別指導の時間を確保できるようにする。 ・必要に応じて放課後に短時間の補習を行う。 ・タブレット PC を活用し、6年間の学習内容の復習を含めたドリル学習を充実させる。
------	--	--	--